

学校名	研究課題	研究手法
小立野小学校	国語	学習課題の充実

1 研究の重点と具体的な取組

(1) 重点1 付けたい力を明確にした主体的学び

単元や本時で付けたい力(資質・能力)を具体化, 明確化し, 付けたい力に適した言語活動や学習課題を設定することで, 単元や本時でどんな力が付いたのかを子ども自身が実感する主体的な学びのある授業づくりを進める。

① 付けたい力の具体化・明確化

- ・単元の始めに必ず学年で教材研究を行い, この単元で何ができるようになればよいのかを具体化し, 単元で付けたい力を明確化した。
- ・教師が実際に言語活動を行い, 付けたい力をつけるためにふさわしい言語活動になっているかを吟味した。
- ・全文掲示や学習計画表(資料1), 教師による成果物のモデル(資料2)を必ず作成し, 既習をふり返るとともに, 単元や1時間のゴールを明確にして学習の見通しを持たせるために活用した。



資料1 学習計画表

② 考える価値ある学習課題の設定

- ・単元のゴール(付けたい力)にたどり着くために「～をはっきりさせたい!」等児童の思いを大切に課題づくりや学習計画づくりをした。児童が必要感と意欲をもって主体的に課題解決できるように取り組んだ。



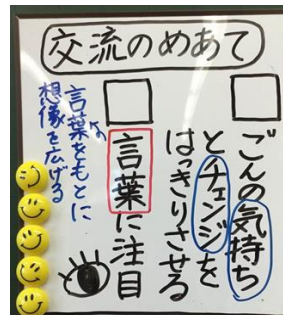
資料2 教師のモデル

(2) 重点2 対話的交流による深い学び

言葉を根拠に考え, 学び合い, 必要感のある交流を設定することで, まとめには付けたい力が表れ, ふり返りには考えの変容や深まりが表れるような授業づくりを進める。

① 必要感のある交流にするために

- ・交流前に「交流でどうなればいいのか?」と子ども達に問いかけて, 交流の目的とめあて(資料3)を明確化して子ども達と共有した。



資料3 交流のめあて



資料4 交流の自己評価

- ・交流後にめあてが達成できたかを, 挙手や終末のふり返りで自己評価(資料4)させる。

2 取組の検証

(1) 教員アンケートの調査項目「交流のめあて・目的を明確に示し、機能的で双方向性のある対話型の交流になるよう指導している」についての肯定的評価の割合は、7月・12月ともに93%だった。

また、「ふりかえりでは、示した観点に沿って、自分の考えの広がりや深まり、変容を意識した内容を書かせるように指導している」についての肯定的評価の割合は、12月の調査で96%で、7月より11ポイント上回った。

(2) 児童アンケートの調査項目「話し合うことで、自分の考えがよりくわしくなる、新たな気づきがあるなど、考えを深めることができる」についての肯定的評価の割合は、12月の調査で95%で、7月より1ポイント上回った。

また、「自分の考えが、友達の意見や話し合いを通して、より深く広くなったことをふり返りに書くことができている」の調査項目についての肯定的評価の割合は、12月の調査で89.6%で、7月より1.4ポイント下回った。

	7月	12月（前回比）
対話的交流 教員	93%	93%（±0）
児童	94%	95%（+1）
ふりかえり 教員	85%	96%（+11）
児童	91%	89.6%（-1.4）

教員・児童アンケートにおける肯定的評価の割合

(3) 共通実践の実施状況を学年会で月に1回、確認して共通理解した。各学年のふり返りから、共通実践を意識しながら学年で協働して教材研究や授業改善に取り組むことについては重点1・2・3ともにほぼ100%達成できた。しかし、重点1の考える価値ある学習課題の設定、重点2の考えや読みの深まり、重点3のグループ交流の評価と学びの見えるふりかえりについては課題が残った。

また、教師一人一人の実施状況を把握するために「学校研究ふりかえりシート」を作成し、週案にはさんで意識して取り組み、月に1回ABCで自己評価した。その結果、12月のA達成率は79.4%で7月より46.1%上回った。各項目のA達成率については下の表の通りである。

重点として特に意識した共通実践	A達成率
考える意欲を高める学習課題の設定	85.7%
学習計画表や教師のモデルでねらいを明確にして本時の見通しを持たせる	100%
対話のある交流になるように学年に応じて反応の仕方や交流の形態を工夫する	66.7%
ペア・グループ・全体交流のめあてを明確にして児童と共有する	81.0%
共有した交流のめあてが達成できたふり返り、評価する	85.7%
ふり返りでは観点を示し、自分の考えの深まりや変容が見える内容を書かせる	52.4%

教員個々の「学校研究ふりかえりシート」各項目のA達成率

3 成果と課題

○学年で教材研究を行い、言語活動を教師が行ったことで、付けたい力を明確にして、それにふさわしい言語活動を設定することができた。

○学習計画表・全文掲示・教師のモデルを活用した導入は100%定着し、付けたい力を意識した主体的学びにつながった。

- 学習計画や毎時間の学習課題を児童の思いを大切に設定したことで、児童の意欲や学習の必要感が高まり、主体的に学ぶことができた。
- 交流前に交流のめあてを児童と共有したことで、必要感のある交流をすることができた。さらに、交流後にそのめあてが達成できたか自己評価をしたことで、自分の考えの深まりや次のめあてをはっきりさせながら学ぶことができた。
- ねらいに即した交流になっているか学年で吟味したことで、従来のペア・グループ・全体交流に加え、ジグソー型の交流、フリー交流など様々な形態や入れどころを工夫して必要感ある交流を設定することができ、対話的交流につながった。
- 交流のお手本映像やナビカード、朝学習の交流タイム等により交流の基本が定着するとともに、学び方や考えを深めるための観点を示したことで対話的交流が実現した。
- 叙述を指し示しながら交流したことで、根拠を明確にしなが言葉に着目して考えることができた。
- ふり返りの観点を示したことで、学びの深まりが見えるふり返りを書くことができる児童が増えた。
- ▲考える価値ある課題設定が難しい時があった。意欲を高める学習課題は対話的交流にも主体的学びにも深く関連するので、今後さらなる充実に努めたい。
- ▲交流の必要感が薄くなってしまうことがあった。ねらいや付けたい力にせまるためにはいつ・どのような交流を設定すればよいのか、系統化して交流の手本を映像化して共有するなど、より組織的に取り組める方策を検討したい。
- ▲対話的交流の中で叙述を根拠に考えを深めることができるようになってきたが、さらに個々の考えが深まるよう工夫を重ねていきたい。そのためには、教師が児童の考えの深まりを具体的に描いていることが大切である。その深まりが交流の中で生まれるように、叙述や他グループの考えを関連づけたり比べたりする考え方や読み方についての手立てを検討していく必要がある。
- ▲ふり返りの内容にまだ個人差がある。ふり返りを書くことで、全員が自分の学びの深まりや変容を実感できるようにしたい。